高等教育機関に所属する男子学生のひきこもり親和性と過去の学校・家庭での経験の関連の検討

－保健医療福祉系学生及び工学系学生を対象として－

○　北海道医療大学大学院看護福祉学研究科 博士課程　米田 政葉（008824）

志渡 晃一（北海道医療大学・004278）

キーワード：ひきこもり親和性 学生 過去の経験

１.研 究 目 的

ひきこもり親和群(以下,親和群)とは,「実際にはひきこもっていないにもかかわらず、ひきこもる人の気持ちがわかるとか、自分でもひきこもりたいと思う人々」(内閣府,2010)であり,一定程度がひきこもり化するひきこもり予備軍的存在として指摘されている(東京都,2008).親和群は,ひきこもり親和性(以下,親和性)を測定する尺度により規定される.米田(2015)が保健医療福祉系高等教育機関に属する学生(以下,保健医療福祉系学生)を対象に行った研究では,親和群に関し男性は友人関係,女性は学生生活全般の影響が大きい.過去の家庭での経験では,男性は社会性に関する要因が関連しており,女性は家族機能の不全傾向にあったことが示唆されている.しかし同系統の専攻に属する学生のみが対象であり,高等教育機関に属する学生の親和性とその関連要因が十分に検討されているとは言い難い.そこで,保健医療福祉系学生と工学系高等教育機関に属する学生(以下,工学系学生)を対象に,専攻別の親和性と過去の学校・家庭での経験の関連を検討することを目的とした.

２.研究の視点および方法

本研究は,専攻別の親和性と過去の学校・家庭での経験の関連について,探索的に検討することを目的とした横断研究である.

調査期間は 2014 年 5 月から 2015 年 12 月であり,無記名自記式質問紙を用いた集合調査を行った.調査対象は北海道内の保健医療福祉系学生 808 名(男性 203 名,女性 605 名)と工学系学生 118 名(男性 116 名,女性 2 名)の計 926 名(有効回答率 87.5%)である.調査対象については機縁法で選定した.なお,工学系学生に女子学生が少ないため,両専攻ともに男子学生のみを対象とした.質問項目は 1)基本属性 4 項目,2)親和性 4 項目,3)過去の友人関係 9 項目,4)過去の家族関係 19 項目である.親和性を測定する質問項目は 4 件法 4 項目であり得点は 4～16 点に分布する.先行研究にならい 15 点以上を親和群,14 点以下を一般群と定義した.親和性を目的変数,他の変数を説明変数として χ^2 検定及び Fisher の直接確立検定にて関連を検討した.その後,内閣府調査から 15～19 歳男子を抜粋し親和性と関連要因を検討した結果との比較を行った

３.倫理的配慮

北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理委員会の承認を得て行った(14N018018・15N014014).二次分析に当たり,東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブから若者の意識に関する調査（内閣府子ども若

者・子育て施策総合推進室)の個票データの提供を受けた.

４.研 究 結 果

表１に親和性と過去の学校・家庭での経験の関連を示した.両専攻に共に,一般群と比べ親和群で該当率が有意に高かった項目は「親は学校の成績を重視していた」1 項目であった.保健医療福祉系学生で一般群と比較し親和群で該当率が高かったのは「一人で遊んでいる方が楽しかった」1 項目であった.工学系学生で一般群と比べ親和群で該当率が高かった項目は「友達をいじめた」「友達にいじめられた」「親と自分との関係がよくなかった」「親が過保護であった」4 項目,該当率が低かったのは「親友がいた」1 項目であった.

表1　ひきこもり親和性と過去の学校・家庭での経験の関連　n(%)

		保健医療福祉系学生			工学系学生		
		一般群	親和群		一般群	親和群	
		172 (100)	31 (100)	p	98 (100)	8 (100)	p
学校での経験	友達とよく話した	168 (97.7)	29 (93.5)		91 (92.9)	8 (100)	
	親友がいた	146 (84.9)	25 (80.6)		73 (74.5)	3 (37.5)	*
	一人で遊んでいる方が楽しかった	65 (37.8)	20 (64.5)	*	36 (36.7)	3 (37.5)	
	不登校を経験した	13 (7.6)	2 (6.5)		5 (5.1)	1 (12.5)	
	友達をいじめた	25 (14.5)	6 (19.4)		8 (8.2)	3 (37.5)	*
	友達にいじめられた	40 (23.3)	10 (32.3)		10 (10.2)	5 (62.5)	*
	いじめを見て見ぬふりをした	52 (30.2)	10 (32.3)		18 (18.4)	3 (37.5)	
	我慢をすることが多かった	96 (55.8)	19 (61.3)		44 (44.9)	5 (62.5)	
	学校の勉強についていけなかった	63 (36.6)	13 (41.9)		45 (45.9)	3 (37.5)	
	先生との関係がうまくいかなかった	43 (25.0)	9 (29.0)		16 (16.5)	2 (25.0)	
家庭での経験	親とは何でも話すことができた	84 (48.8)	11 (35.5)		54 (55.1)	3 (37.5)	
	親はしつけが厳しかった	49 (28.5)	8 (25.8)		20 (20.4)	4 (50.0)	
	困った時親は親身に助言してくれた	89 (51.7)	16 (51.6)		50 (51.0)	2 (25.0)	
	自分で決めて家族に相談する事はなかった	23 (13.4)	5 (16.1)		18 (18.4)	2 (25.0)	
	将来の職業などを親に決められた	7 (4.1)	3 (9.7)		3 (3.1)	0 (0.0)	
	家族に相談しても役に立たなかった	28 (16.3)	9 (29.0)		16 (16.3)	3 (37.5)	
	親は学校の成績を重視していた	51 (29.7)	16 (51.6)	*	21 (21.6)	5 (62.5)	*
	小さい頃から習い事に参加していた	117 (68.0)	23 (74.2)		59 (60.2)	6 (75.0)	
	親と自分との関係がよくなかった	22 (12.8)	6 (19.4)		12 (12.2)	5 (62.5)	*
	両親の関係がよくなかった	26 (15.1)	3 (9.7)		14 (14.3)	3 (37.5)	
	引越しや転校をした	53 (30.8)	7 (22.6)		20 (20.4)	3 (37.5)	
	大きな病気をした	18 (10.5)	6 (19.4)		10 (10.2)	0 (0.0)	
	両親が離婚した	23 (13.4)	2 (6.5)		10 (10.2)	1 (12.5)	
	親と死別した	4 (2.3)	1 (3.2)		5 (5.1)	0 (0.0)	
	親から虐待を受けた	5 (2.9)	0 (0.0)		2 (2.0)	1 (12.5)	
	親が過保護であった	23 (13.4)	5 (16.1)		13 (13.3)	4 (50.0)	*
	親が過干渉であった	21 (12.2)	5 (16.1)		14 (14.3)	2 (25.0)	
	経済的に苦しい生活を送った	16 (9.3)	1 (3.2)		11 (11.2)	2 (25.0)	
	我慢をすることが多かった	42 (24.4)	11 (35.5)		34 (34.7)	5 (62.5)	

＊：p＜0.05 by Fisherの直接確率検定

下線ついている項目は，内閣府調査を二次解析し15～19歳男性で有意差のみられた項目

5.考 察

二次解析と比較し,保健医療福祉系学生は過去の学校での経験,家庭での経験ともにあまり影響が見られなかった.工学系学生では,学校での経験,家庭での経験ともに二次解析と同様の傾向であった.専攻別に関連要因が異なっていたのは非常に興味深い.今後,例数を増しさらに検討することが課題である.

注 1) 本研究は筆者の 2015 年度修士論文の一部を使用した.